

内令提  
要登載

ハ特設海軍衣糧廠ニ之ヲ準用ス但シ部ノ區分ハ之ヲ行ハザルモノトス  
前項ノ外特設海軍衣糧廠ハ海軍衣糧廠ト氣脈ヲ通ズベシ  
第二條 廠長ハ調査シタル重要ナル事項ニ對スル成果及所見ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

(内令提要卷一、三〇ノ三四ノ一頁參照)

内令第七百二十三號

特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

本文中「特設海軍燃料廠、」ノ下ニ「特設海軍衣糧廠、」ヲ加ヘ表中佐世保鎮守府所管支那方面艦隊所屬ノ部申上海海軍航路部ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

上海海軍衣糧廠 上海

(内令提要卷一、三八ノ三七頁參照)

内令

八八五

0718

内 令

八八六

内令提  
登載

内令第七百二十四號

海軍施設部工員養成所ニ關スル件申左ノ通改正セラル

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「軍港」ノ下ニ「及要港（徳山及馬公要港ヲ除ク）」ヲ加フ

（内令提要卷一、二八ノ四頁参照）

内令提  
登載

内令第七百二十五號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府ノ部中追濱海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

藤澤海軍航空隊 神奈川県藤澤市

0719

内令提  
要登載

佐世保鎮守府ノ部中「中頭郡」ヲ「島尻郡」ニ改メ三亞海軍航空隊ノ項ヲ削ル

同部中博多海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

福岡海軍航空隊

福岡縣糸島郡

同部中第九五二海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第九五三海軍航空隊

東港航空基地（臺灣高雄州東港郡）

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中名古屋海軍航空隊岡崎分遣隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

三重海軍航空隊滋賀分遣隊

滋賀縣滋賀郡

（内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照）

内令第七百二十六號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

八八七

0720

内令  
第七百二十七號

内 令

八八八

「追濱海軍航空隊」ノ次ニ「藤澤海軍航空隊」ヲ、「博多海軍航空隊」ノ次ニ「福岡海軍航空隊」ヲ加ヘ「三亞海軍航空隊」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四二頁參照)

内令第七百二十七號

昭和十八年内令第二千五十五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件申左ノ通改正ス

昭和十九年六月一日

海 軍 大 臣 嶋 田 繁 太 郎

「三亞海軍航空隊」ヲ削リ追濱海軍航空隊ノ部ノ次ニ左ノ如ク加フ  
藤澤海軍航空隊

高等科兵器術(航空無線兵器)練習生、普通科兵器術(航空無線兵器)練習生、兵器整備術(航空無線兵器)ヲ専修スル豫備學生及整備科豫備學生ノ教育

「三重海軍航空隊」ノ下ニ「福岡海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁參照)

0721

(別表)

特設海軍衣糧廠定員表

(昭和十九年内令第七百二十一號)

計			附	副部 部員		長
特 務 士 官	高 等 文 官	士 官  <small>内兼務一人</small>		技 主 計 科 佐 尉 官 師	軍 醫 科 佐 尉 官  <small>兼務一</small>	主 計 少 將
一人	四人	七人	主計中少尉(主) 一	四	五	一
判 任 文 官	下 士 官		技 書  手 記	主 計 兵 曹	衛 生 兵 曹	
六人	四人		四	二	三	一

0722

内令第七百二十八號

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

昭和十九年六月一日

海防艦 五百島  
同 八十島

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百二十九號

右吳鎮守府所管ト假定シタル處之ヲ解ク

昭和十九年六月一日

自第百六號特設輸送艦  
至第百二十六號特設輸送艦  
自第百五十四號特設輸送艦  
至第百五十六號特設輸送艦

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

八八九

0723

内令  
受登  
規

内令第七百三十號（所要ノ向ニ配付ス）

内令第七百三十一號

海軍施設部設營班規程左ノ通改正ス

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍施設部教導設營班規程

第一條 大東亞戰爭中軍港ニ在ル海軍施設部ニ教導設營班ヲ置ク

第二條 海軍施設部教導設營班ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 特設設營隊員タルベキ軍人ノ技術教育及訓練並ニ工員ノ養成

二 特設設營隊ノ進出準備ノ助成

三 當該海軍施設部ノ實施スル研究、實驗、應急工事及直營工事ノ中海軍施設部長ノ指定スルモ

第三條 海軍施設部教導設營班ニ班長、班員及附ヲ置ク當該海軍施設部ノ職員ノ中ヨリ海軍施設部長之ヲ命ズ

内令

八九五

0724

内令提  
要登載

内令

八九六

第四條 班長ハ海軍施設部長ノ命ヲ承ケ班務ヲ掌理ス

第五條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ服務ス

第六條 附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

(内令提要卷一、二八ノ二頁参照)

内令第七百三十二號

海軍火藥廠處務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第六條中「及第二海軍火藥廠製造部」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二海軍火藥廠製造部ハ火藥、爆藥及此等ノ原料ノ造修ニ關スルコトヲ掌ル

(内令提要卷一、三〇ノ二六頁参照)

0725



内令提  
要登載

内令第七百三十三號

臨時魚雷艇訓練所規程中左ノ通改正ス

昭和十九年六月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

附則第一項中「指示ヲ受ケ」ヲ「區處ヲ承ケ」ニ改ム

(内令提要卷一、四一頁參照)

内令第七百三十四號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

驅逐艦 樺

伊號第四百四潛水艦

第三十六號海防艦

第三十八號海防艦

第四十號海防艦

内令

八九七

0726

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和十九年六月五日

第四十六號海防艦

驅逐艦 杉

伊號第三百七十二潛水艦

海防艦 大 東

第四十二號海防艦

第四十四號海防艦

第五十一號海防艦

驅逐艦 楨

第六十一號海防艦

海軍大臣 嶋田繁太郎

0727

内令提  
要登載

内令第七百三十三號ノ二

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

昭和十九年六月三日

第百八十七號驅潛特務艇

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令提  
要登載

内令第七百三十三號ノ三

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月三日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百七十七號(吳)」ノ次ニ「第百八十七號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二頁参照)

内令提  
要登載

内令第七百三十三號ノ四

第百三十號特設輸送艦

内令

八九七ノ二

0728

内令

八九七ノ三

右佐世保鎮守府所管ト定メラル

昭和十九年六月三日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

0729

内令提  
要登載

内令第七百三十五號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第四監視艇隊ノ項中「有明丸、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一四二ノ一〇頁参照)

内令提  
要登載

内令第七百三十六號

横須賀鎮守府所管

特設驅潛艇 俊鷹丸

同 白鴻丸

右舞鶴鎮守府所管ト改ム

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令

八九九

0730

内令

九〇〇

内令  
要登載

内令第七百三十七號

昭和十八年内令第二千五百六十六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

伊勢防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第十二興漁丸(横)」ノ次ニ「有明丸(横)」ヲ加フ  
第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「若竹丸(舞)」ノ次ニ「俊鷹丸(舞)、白鴻丸(舞)」ヲ加フ  
第八根據地隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

内令  
要登載

内令第七百三十八號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

驅逐艦、一等松型ノ項中「桑」ノ下ニ「杉、楨、樅」ヲ加フ

0731

潜水艦、一等伊三百六十一型ノ項中「伊號第三百七十一」ノ下ニ、「伊號第三百七十二」ヲ、同伊四百型ノ項中「伊號第四百二」ノ下ニ、「伊號第四百四」ヲ加フ  
海防艦ノ部中占守型及御藏型ノ項ヲ左ノ如ク改ム

占守型	御藏型	鵜來型
占守、國後、八丈、石垣、擇捉、松輪、佐渡、隱岐、壹岐、對馬、平戸、福江、天草、滿珠、千珠、笠戸	御藏、三宅、淡路、能美、倉橋、屋代、千振、日振、大東、草垣、昭南	鵜來、沖繩、奄美、粟國

同第一號型ノ項中「第四十三號」ノ下ニ、「第五十一號、第六十一號」ヲ、同第二號型ノ項中「第三十四號」ノ下ニ、「第三十六號、第三十八號、第四十號、第四十二號、第四十四號、第四十六號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁參照)

内令

九〇二

0732

内令  
登載

内令

九〇二

内令第七百三十九號

右佐世保鎮守府所管ト定メラル

昭和十九年六月七日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第百三十三號特設輸送艦

○正誤

本年内令第七百七號ハ衍



0733



内令提  
要登載

内令第七百四十號

海軍電波本部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年六月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第六條中第十號ヲ第十一號、第十一號ヲ第十二號トシ同條第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十 電波本部製圖工場ノ勞務及取締ニ關スルコト

第八條中第四號ヲ第五號トシ以下順次繰下ゲ同條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 電波本部製圖工場工員ノ給與及同工場用材料物品ノ準備ニ關スルコト

第十二條中第七號ヲ第八號トシ同條第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 電波本部製圖工場ノ所掌事項ニ關スルコト

(昭和十九年内令第五百六十七號參照)

内令第七百四十一號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

内令

九〇三

0734

内令

九〇四

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦、巡洋艦二等ノ部中夕張ノ項ヲ削ル

驅逐艦、一等等初雪型ノ項中「天霧」「雷、電」ヲ、同不知火型ノ項中「秋雲」ヲ削ル

潛水艦、一等等伊二型ノ項中「伊號第二」「ヲ、同伊十七型ノ項中「伊號第三十二」ヲ、同伊百六

十八型ノ項中「伊號第百六十九」「ヲ、伊號第百七十四」ヲ削ル

掃海艇、第七號型ノ項中「第七號」ヲ削ル

敷設艇ノ部中「鷗」ヲ削ル

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第七百四十二號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

特務艇、驅潛特務艇第一號型ノ項中「第百九十五號」ノ下ニ「第百九十六號、第百九十七號、第

内令提  
要登載

0735

百九十八號、百九十九號、第二百號、第二百一號、第二百二號、第二百三號、第二百四號、第二百五號、第二百六號、第二百七號、第二百八號、第二百九號、第二百十號、第二百十一號、第二百十二號、第二百十三號、第二百十四號、第二百十五號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁參照)

○正誤

本年内令七百三十一號(八百九十五頁)本文一行目「海軍施設部ノ下ニ教導」ヲ加フ

内令

九〇五

0736

内令  
登載

内令  
登載

内令第七百四十三號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第六驅逐隊ノ項ヲ削ル

第十驅逐隊ノ項中「秋雲」ヲ削ル

第十九驅逐隊ノ項中「天霧」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第七百四十四號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第七潛水隊ノ項中「伊號第二」ヲ削ル

内令

九〇七

0737

内令

九〇八

第十二潜水隊ノ項中「伊號第百六十九、伊號第百七十四、」ヲ削ル  
第十五潜水隊ノ項中「伊號第三十二、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令提  
要登載

内令第七百四十五號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第二十七掃海隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令提  
要登載

内令第七百四十六號

佐世保鎮守府警備敷設艇

敷設艇 鷗

右役務ヲ解カル

0738

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

軍艦 夕張

横須賀鎮守府在籍

驅逐艦 雷

驅逐艦 電

驅逐艦 秋雲

吳鎮守府在籍

驅逐艦 天霧

横須賀鎮守府在籍

伊號第二潜水艦

吳鎮守府在籍

伊號第三十二潜水艦

内令  
要登載

内令

九一〇

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

伊號第百六十九潛水艦  
伊號第百七十四潛水艦

右帝國掃海艇籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍  
第七號掃海艇

右帝國敷設艇籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

敷設艇 鷗

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百四十七號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

驅逐艦 楨

0740

内令様  
要登載

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

海防艦 八十島

右警備海防艦ト定メラル

吳鎮守府在籍

海防艦 八十島

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

第三十八號掃海艇

右警備掃海艇ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

第三十八號掃海艇

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令第七百四十八號

第百六十六號驅潛特務艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

内令

九二

(前送ノ分ト引替舊紙ハ焼却相成度)

0741



内 令

九二二

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令提  
要登載

内令第七百四十九號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

舞鶴防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百六十二號(舞)」ノ次ニ「第百六十六號(舞)」ヲ加フ

第六十五警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第四十六號(舞)」ヲ削ル

第八十一警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第三十八號(鎮)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)

内令提  
要登載

内令第七百五十號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

第四十六號驅潛特務艇

0742

内令  
登載

右本籍ヲ鎮海警備府ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第三十八號驅潛特務艇

内令第七百五十一號

昭和十八年内令第二千五百六十六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

宗谷防備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

厚岸防備隊

岡部 丸(横)  
吉野 丸(横)  
第一玉岡丸(横)  
第二玉岡丸(横)

大島防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「陵水丸(佐)」ヲ削ル

南東方面艦隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「博丸(吳)」ヲ削ル

内令

九二三

0743

内令様  
要登載

内令

九一四

第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「白鴻丸(舞)」ノ次ニ「昭代丸(舞)、瑞鳳丸(舞)」ヲ加フ  
第三十根據地隊ノ項特設監視艇ノ欄「水天丸(吳)」ヲ削ル  
第四十一警備隊ノ項特設敷設艇ノ欄「民星丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第七百五十二號

右特設捕獲網艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 博丸

右特設敷設艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 民星丸

右特設驅潛艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 陵水丸

右特設監視艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

漁船 水天丸

右特設運送船(給糧船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 札幌丸

0744

受  
登  
載

内  
令

船名	特設艦船種別	所管
汽船 昭代丸	特設驅潛艇	舞鶴鎮守府
同 瑞鳳丸		

内令第七百五十三號  
左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム  
昭和十九年六月十日  
海軍大臣 嶋田繁太郎

右特設運送船（給炭油船）トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
同 廣隆丸  
右特設運送船（雜用船）トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク  
同 長田丸  
昭和十九年六月十日  
海軍大臣 嶋田繁太郎

0745

九一五

内令第七百五十四號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

第百九十七號驅潛特務艇

第百九十八號驅潛特務艇

第百九十九號驅潛特務艇

第百一十四號驅潛特務艇

第百一十五號驅潛特務艇

第百一十六號驅潛特務艇

第百一十七號驅潛特務艇

第百一十八號驅潛特務艇

第百一十九號驅潛特務艇

第百二十號驅潛特務艇

第百二十一號驅潛特務艇

第百二十二號驅潛特務艇

0746

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ大湊警備府ト假定ス

昭和十九年六月十日

第二百號驅潛特務艇

第二百一號驅潛特務艇

第二百五號驅潛特務艇

第二百七號驅潛特務艇

第二百四號驅潛特務艇

第二百十號驅潛特務艇

第九十六號驅潛特務艇

第二百三號驅潛特務艇

第二百十二號驅潛特務艇

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

九一七

0747

内令提  
要登載

内令

九一八

内令第七百五十五號

海軍氣象部修技所規則左ノ通定ム

昭和十九年六月十二日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

海軍氣象部修技所規則

水路部修技所規則（附則第一項ノ規定ヲ除ク）ヲ準用ス

（昭和十九年達第百四十三號參照）

内令提  
要登載

内令第七百五十六號

昭和十八年内令第二百九十四號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十三日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三 東京高等商船學校又ハ神戸高等商船學校ニ配屬ノ武官ハ夫々第三短期高等海員養成所又ハ第四短期高等海員養成所配屬ヲ兼務スルモノトス

0748

内令提  
要登載

内令第七百五十七號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十三日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

佐伯防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第百六十五號(吳)」ノ次ニ「第百六十七號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二一頁參照)

内令提  
要登載

内令第七百五十八號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

昭和十九年六月十三日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

第百六十七號驅潜特務艇

内令提  
要登載

内令第七百五十九號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年六月十四日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

伊號第三百六十四潛水艦

内令

九二九

0749



内令  
要登載

内令

九二〇

内令第七百六十號

一式二號轉輪羅針儀教範別冊ノ通定ム

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十九年六月十四日

海軍大臣 嶋田繁太郎

0750

四 補機（空氣壓縮機）檢定

第三章第三節第三款ノ次ニ左ノ一欸ヲ加フ

第四欸 補機（空氣壓縮機）檢定

第七十四條ノ二 本檢定ハ水上艦船部隊ノ空氣壓縮機員及空氣壓縮機部通信傳令員ニ課スル檢定ニシテ各戰團配置毎ニ下士官ト兵トニ區分シ各個又ハ集團ニテ之ヲ施行スルモノトス但シ同一區分ノ被檢定員二名以下ノ場合ハ同一部ノ他ノ配置ノ者又ハ他ノ區分ハ者ト合併スルモノトス

第七十四條ノ三 本檢定ノ課目被檢定員及主要檢定事項左ノ如シ

檢定課目	被檢定員	主要檢定事項
整理法	空氣壓縮機員	一 空氣壓縮ポンプ及同關聯裝置整備ノ良否 二 整備ノ不備ニ因ル故障缺損
操縦法		一 操作ノ適否 二 操作ノ缺陷ニ因ル故障缺損 三 效力發揮ノ良否 四 應急處置ノ適否
通信傳令法	通信傳令員	一 通信裝置整備ノ良否 二 通信傳令ノ確否及遲速

0751

第八十七條中「機關員」ヲ「機關科員（潜水艦ハ機關員）」ニ改ム

第八十九條表中「電機檢定」ヲ

「電機檢定（潜水艦ノミ）」

ニ改メ

「補機檢定」

「補機員」

及備

考中第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號トス

第三章第八節ヲ左ノ如ク改ム

#### 第八節 防禦

第百三條 防禦檢定ハ之ヲ左ノ如ク種別ス

一 應急檢定

二 幹部檢定

三 注排水檢定

四 電機檢定

五 工作檢定

#### 第一款 應急檢定

第百四條 本檢定ハ應急員ニ課スル檢定ニシテ一哨所ノ應急員ヲ以テ檢定單位トス哨所數三以下ノ場合  
ニ在リテハ適宜ヤ哨所ノ應急員ヲ二分スル等ニ依リ最小四個檢定單位トス驅逐隊、掃海隊、永雷隊又  
ハ驅潛隊ニ在リテハ各艦（艇）ヲ以テ檢定單位トス

第百四條ノ二 應急班員タルベキ他科員ノ員數ハ部署標準ノ定ムル所ニ依ル  
 第百四條ノ三 本檢定ノ課目被檢定員及主要檢定事項左ノ如シ

檢定課目	被檢定員	主 要 檢 定 事 項
防 火 法		一 防火施設要具ノ整備及取扱ノ良否 二 防火處置ノ適否
防 水 法		一 防水施設要具ノ整備及取扱ノ良否 二 浸水探知警戒ノ適否 三 浸水處置ノ適否
防 毒 法		一 各種防毒兵器施設要具取扱ノ良否 二 防毒處置ノ適否
破壊物處置法		一 使用器具ノ整備選定及取扱ノ適否 二 破壊物處置ノ適否
應急照明法		應急照明ノ適否
船體構造 同整備法		一 船體構造艤裝知悉ノ良否 二 船體整備ノ良否 三 艦内閉鎖ノ適否

應  
急  
員

備考	通信傳令法
檢定ハ主務配置ニ付之ヲ行ヒ兼務配置(常務配置)ノ成績ヲ加味スルモノトス	一 通信裝置整備ノ良否 二 通信傳令ノ確否及遲速

## 第二款 幹部檢定

第二百五條 本檢定ハ防禦幹部附ニ課スル檢定ニシテ個人單位トス但シ被檢定員二名以下ノ場合ハ適宜ノ應急員ト合併スルモノトス

第二百五條ノ二 本檢定ノ課目被檢定員及主要檢定事項左ノ如シ

備考	檢定課目	被檢定員	主要檢定事項
檢定ハ主務配置ニ付之ヲ行ヒ兼務配置(常務配置)ノ成績ヲ加味スルモノトス	整理法		一 通信裝置整備ノ良否 二 船體構造艤裝知悉ノ良否
應急處置法	通信傳令法	防禦幹部附	一 通信傳令(電話交換ヲ含ム)ノ確否及遲速 二 手先信號法ノ適否 三 筆記記註法ノ適否 概ネ應急檢定ニ準ズ

0754

第三款 注排水検定

第百六條 本検定ハ注排水員ニ課スル検定ニシテ各職階配置別ニ区分シ個人單位トス但シ被検定員二名以下ノ場合ハ適宜同一部ノ他ノ配置ノ者ト合併スルモノトス

第百六條ノ二 本検定ノ課目被検定員及主要検定事項左ノ如シ

備考	検定課目	被検定員	主要検定事項
検定ハ主務配置ニ付之ヲ行ヒ兼務配置(常務配置)ノ成績ヲ加味スルモノトス	整理法	注排水員	<p>一 管制装置整備ノ良否</p> <p>二 辨開閉装置整備ノ良否</p> <p>三 注排水用諸ポンプ整備ノ良否</p>
	操縦法		<p>一 管制装置操作ノ適否</p> <p>二 辨開閉ノ適否</p> <p>三 注排水用諸ポンプ取扱ノ適否</p>
	通信傳令法		<p>一 通信装置整備ノ良否</p> <p>二 通信傳令ノ確否及遅速</p>

第四款 電機検定

第百七條 本檢定ハ電機員ニ課スル檢定ニシテ各戰團配置別ニ下士官ト兵トニ區分シ各個及集團ニテ之ヲ施行スルモノトス但シ同一區分ノ被檢定員二名以下ノ場合ハ同一部ノ他ノ配置ノ者又ハ他ノ區分ノ者ト合併スルモノトス

第百七條ノ二 本檢定ノ課目被檢定員及主要檢定事項左ノ如シ

檢定課目	被檢定員	主要檢定事項
整理法	電機員	一 電機諸裝置整備ノ良否 二 整備ノ不備ニ因ル故障缺損
操縱法		一 操作ノ適否 二 操作ノ缺陷ニ因ル故障缺損 三 效力發揮ノ良否 四 應急處置ノ適否
通信傳令法		一 通信裝置整備ノ良否 二 通信傳令ノ確否及遲速

#### 第五款 工作檢定

第百八條 本檢定ハ工作員ニ課スル檢定ニシテ工作員ヲ下士官ト兵トニ區分シ各個及集團ニテ之ヲ施行

0756

スルモノトス但シ同一區分ノ被檢定員二名以下ノ場合同一部ノ他ノ配置ノ者ト合併シテ施行スルコトヲ得

第百八條ノ二 本檢定ノ課目被檢定員及主要檢定事項左ノ如シ

檢定課目	被檢定員	主 要 檢 定 事 項
整 理 法	工 作 員	一 工作諸裝置、器具、工具及工作材料ノ整備ノ良否
工 作 法		二 潛水器及潛水要具ノ整備ノ良否
潛 水 法		一 工作作業及其ノ成果ノ適否 二 通信傳令ノ確否及遲速
備 考	潛水法ハ潛水術ヲ修得セル者ニ之ヲ課スルモノトス	
		潛水作業及其ノ成果ノ適否

第三章中第九節ヲ削リ第十節ヲ第九節、第十一節ヲ第十節トス



内令提  
要登載

内令第七百六十二號 (所要ノ向ニ配付ス)

内令第七百六十三號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

第七百七十二號驅潛特務艇

右本籍ヲ大湊警備府ト定ム

第七百八十一號驅潛特務艇

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令提  
要登載

内令第七百六十四號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

舞鶴防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六百六十六號(舞)」ノ次ニ「第七百七十二號(舞)」ヲ加フ

内令

九二五

0758

内令  
提登  
載

内令

九二六

大湊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第八十一號（大）」ノ次ニ「第百八十一號（大）」ヲ加フ

（内令提要卷三、四八ノ二一頁参照）

内令第七百六十五號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

自魚雷艇 第二百十四號隼艇  
至魚雷艇 第二百二十五號隼艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

自第八百三十一號魚雷艇  
至第八百四十八號魚雷艇  
自魚雷艇 第一百一號隼艇  
至魚雷艇 第一百六號隼艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

自第五百二十九號魚雷艇  
至第五百三十七號魚雷艇

0759

内令  
要登載

内令第七百六十六號

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

魚雷艇 第六十五號準艇  
魚雷艇 第六十六號準艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

第四百六十八號魚雷艇  
第四百六十九號魚雷艇  
第四百九十一號魚雷艇  
第四百九十二號魚雷艇

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令

九二七

0760

内令提  
要登載

内令

内令第七百六十七號

右奥鎮守府所管ト定メラル

昭和十九年六月十五日

第百五號特設輸送艦  
第百五十三號特設輸送艦

海軍大臣 嶋田 繁太郎

九二八

0761

内令  
第七百六十八號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

船名	特設艦船種別	所管
汽船 第三共榮丸	特設運送船(給油船)	佐世保鎮守府

内令

九二九

0762

内令提  
要登載

内令第七百六十八號 (後送ス)

内令第七百六十九號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中霞ヶ浦海軍航空隊東京分遣隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

横須賀海軍航空隊大分分遣隊

大分縣大分市

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令提  
要登載

内令第七百七十號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

内令

九三一

0763

特務艇、魚雷艇第四百六十八號型ノ項中「、第四百六十八號、」ヲ、同四百六十九號型ノ項中「第四百六十九號、」ヲ削リ同項中「第五百號」ノ下ニ「、第五百二十九號、第五百三十號、第五百三十一號、第五百三十二號、第五百三十三號、第五百三十四號、第五百三十五號、第五百三十六號、第五百三十七號」ヲ、同「第八百三十號」ノ下ニ「、第八百三十一號、第八百三十二號、第八百三十三號、第八百三十四號、第八百三十五號、第八百三十六號、第八百三十七號、第八百三十八號、第八百三十九號、第八百四十號、第八百四十一號、第八百四十二號、第八百四十三號、第八百四十四號、第八百四十五號、第八百四十六號、第八百四十七號、第八百四十八號」ヲ加ヘ同第四百九十一號型ノ項ヲ、同十號隼型ノ項中「、第六十五號、第六十六號」ヲ削リ同二十七號隼型ノ項中「第二百十三號」ノ下ニ「、第二百十四號、第二百十五號、第二百十六號、第二百十七號」ヲ、同七十四號隼型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

百一號隼型

第一百號、第一百二號、第一百三號、第一百四號、第一百五號、第一百六號、第一百十八號、第一百十九號、第一百二十號、第一百二十一號、第一百二十二號、第一百二十三號、第一百二十四號、第一百二十五號

(内令提要卷三、四三頁參照)

0764

内令提  
要  
登載

内令第七百七十一號

昭和十八年内令第十一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和十九年六月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

大分航空基地ノ項中「宇佐海軍航空隊」ヲ「横須賀海軍航空隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁參照)

○正誤

本年内令第七百四十九號中「第百五十七號(舞)」ハ「第百六十二號(舞)」ノ誤

〇

内令

九三三

0765



内令第七七二號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年六月十六日

驅逐艦 横

要内令提  
登載

海軍 大 日

内令第七七三號

昭和十六年内令第千二百二十三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地等ノ件申左ノ通改正ス

本令ハ昭和十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年六月十九日

要内令提  
登載

海軍 大 日

三重縣河藝郡

第二海軍航空廠鈴鹿分工場

ヲ

東京都硫黄島

第二海軍航空廠硫黄島分工場

ニ改ム

三重縣河藝郡

第二海軍航空廠鈴鹿分工場

(内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)

内令第七七四號

昭和十五年内令第六百四十六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ノ件申左ノ通改正ス

昭和十九年六月二十日

要内令提  
登載

海軍 大 日

「第二十五海軍建設部」ヲ「第二十六海軍建設部」ニ改ム  
「アンボン支隊」ヲ「アンボン支隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ五四ノ一頁参照)

内令第七七五號 (後送ス)

内令第七七六號

昭和十八年内令第千八百三十三號別表中左ノ通改正ス  
昭和十九年六月二十日

海軍 大 日

要内令提  
登載

第二十六特別根據地隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第百五號(佐)」ノ前ニ「第三號(吳)」ヲ加フ

第四警備隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第三號(吳)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二頁参照)

内令第七七七號

昭和十八年内令第千五百六十六號別表中左ノ通改正ス  
昭和十九年六月二十日

海軍 大 日

要内令提  
登載

舞鶴防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「紀進丸(舞)」ヲ削ル

紀伊防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「富士丸(吳)」ヲ削ル  
第六艦隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「第一號桐丸(佐)、朝輝丸(佐)、紀進丸(舞)」ヲ、特設捕獲網艇ノ欄「海雲丸(吳)」ノ次ニ「富士丸(吳)」ヲ加フ

ニ「富士丸(吳)」ヲ加フ

内 令

九三五

0766

羅津方面特別根據地隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄第一號桐丸(佐)、  
朝郎丸(佐)ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

内令第七七八號

第三十三號海防艦  
第三十五號海防艦  
第三十九號海防艦  
第五十六號海防艦  
第八號輸送艦  
右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

驅逐艦 檜  
同 楓  
伊號第二百一潛水艦  
波號第一百一潛水艦  
波號第一百二潛水艦  
第三百三十二號海防艦  
第三百三十四號海防艦  
右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

驅逐艦 檜  
右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

同 榎  
右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和十九年六月二十日

海 軍 大 臣

0767

<p>内令第七七五號 (後送分) 潜水隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年六月二十日 海軍大臣 要令掲載</p> <p>第十五潜水隊ノ項中「伊號第十六、」ノ下ニ「伊號第二十六、」ヲ加フ</p>	<p>内令第七七九號 艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス 昭和十九年六月二十日 海軍大臣 要令掲載</p> <p>驅逐艦、一等松型ノ項中「樞」ノ下ニ「樞、樞、樞、樞」ヲ加フ</p>	<p>伊二百一型 伊號第二百一 同二等ノ欄ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ 波百一型 波號第百一、波號第百二</p> <p>海防艦、第一號型ノ項中「第三十一號」ノ下ニ「第三十三號、第三十五號」ヲ、「第三十七號」ノ下ニ「第三十九號」ヲ、同第二號型ノ項中「第三十四號」ノ下ニ「第五十六號」ヲ、「第三百三十號」ノ下ニ「第三百三十二號、第三百三十四號」ヲ加フ</p>	<p>輸送艦、一等第一號型ノ項中「第七號」ノ下ニ「第八號」ヲ加フ (内令提要卷三、三三頁参照)</p> <p>内令第七八〇號 第百六十四號驅潛特務艇 第百七十四號驅潛特務艇 右本籍ヲ吳鎮守府卜定ム 昭和十九年六月二十二日 海軍大臣 要令掲載</p>	<p>内令第七八一號 昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年六月二十三日 海軍大臣 要令掲載</p> <p>佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百五十六號(吳)」ノ次ニ「第百六十四號(吳)」ヲ、「第百六十七號(吳)」ノ次ニ「第百七十四號(吳)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二頁参照)</p>	<p>内令第七八二號 潜水隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年六月二十三日 海軍大臣 要令掲載</p>
--	--	---	--	--	---

内 令

九三七

0768

第三十四潜水隊ノ項中「呂號第四十五」ノ下ニ「呂號第四十六」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

0769

<p>内令第七八三號</p> <p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム</p> <p>昭和十九年六月二十三日</p> <p>海軍大臣</p> <p>要内令提 登載</p>	<p>内令第七八四號</p> <p>昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正</p> <p>昭和十九年六月二十三日</p> <p>海軍大臣</p> <p>要内令提 登載</p> <p>横須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第五百五十九號(横)」ノ次ニ「第六百六十三號(横)」ヲ加フ</p> <p>(内令提要卷三、四八ノ二一頁参照)</p>	<p>内令第七八五號 (後送ス)</p> <p>内令第七八六號</p> <p>右佐世保鎮守府所管ト定メラル</p> <p>昭和十九年六月二十四日</p> <p>海軍大臣</p> <p>要内令提 登載</p> <p>第三百三十一號特設設備</p>	<p>内令第七八七號</p> <p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル</p> <p>第二號輸送艦</p> <p>要内令提 登載</p>
<p>昭和十九年六月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> <p>内令第七八八號</p> <p>海軍工廠處務規程中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年六月二十六日</p> <p>海軍大臣</p> <p>要内令提 登載</p>	<p>内令第七八九號</p> <p>海軍工廠處務規程中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年六月二十六日</p> <p>海軍大臣</p> <p>要内令提 登載</p> <p>第八條中「但シ」ノ下ニ「吳海軍工廠砲煙部ニ在リテハ砲煙實驗部ノ所掌ニ屬スルモノヲ除キ」ヲ加フ</p> <p>第十九條第二號中「實驗」ノ下ニ「及射表ノ造修」ヲ加フ</p> <p>(内令提要卷一、二九頁参照)</p>	<p>第九條ノ二中「光學兵器」ノ下ニ「及航海兵器」ヲ加フ</p> <p>附則</p> <p>本令ハ昭和十九年六月一日ヨリ之ヲ適用ス</p> <p>(内令提要卷一、三〇頁参照)</p>	<p>内令第七九〇號</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル</p> <p>第三十號海防艦</p> <p>要内令提 登載</p>

内令

九三九

0770

佐世保鎮守府在籍

第三十號海防艦

右警備海防艦卜定メラル

昭和十九年六月二十六日

海軍大臣

内令第七九一號

第百九十八號驅潛特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府卜定ム

昭和十九年六月二十六日

海軍大臣

内令第七九二號

昭和十八年内令第千八百三十三號別表中左ノ通改メ

昭和十九年六月二十六日

海軍大臣

佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百八十七號（吳）」ノ次ニ

「第百九十八號（吳）」ヲ加フ

（内令提要卷三、四八ノ二一頁参照）

0771

<p>内令第七九三號</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル</p> <p>昭和十九年六月二十六日</p> <p>海軍大臣</p> <p>伊號第三百七十二潛水艦</p> <p>要内令提登載</p>	<p>内令第七九四號</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル</p> <p>佐世保鎮守府在籍</p> <p>海防艦 日 振</p> <p>要内令提登載</p>	<p>内令第七九五號</p> <p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル</p> <p>昭和十九年六月二十八日</p> <p>海軍大臣</p> <p>驅逐艦 梅</p> <p>要内令提登載</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル</p> <p>昭和十九年六月二十八日</p> <p>海軍大臣</p> <p>吳鎮守府在籍</p> <p>海防艦 五百島</p> <p>要内令提登載</p>	<p>内令第七九七號 (後送ス)</p> <p>緊急戦備促進部規程左ノ通定ム</p> <p>昭和十九年六月三十日</p> <p>海軍大臣</p> <p>要内令提登載</p>	<p>緊急戦備促進部規程</p> <p>第一條 當分ノ間海軍省ニ緊急戦備促進部ヲ置ク</p> <p>第二條 緊急戦備促進部ハ緊急戦備計畫ニ基キ關係各部ノ緊密ナル連絡調整ヲ圖リ各般ノ障礙ヲ除去シ以テ之方圓滑迅速ナル實行ノ促進ニ任ズル所トス</p> <p>第三條 緊急戦備促進部ニ部長、副部長、部員、幹事及幹事輔佐ヲ置ク其ノ組織別表ノ如シ</p> <p>第四條 部長ハ部務ヲ總理ス</p> <p>第五條 副部長ハ部長ヲ佐ケ部務ヲ整理ス</p> <p>第六條 部員及幹事ハ議案ノ審議、連絡等ニ任ジ各常務機關ヲ通ジ審議決定事項ノ速ナル實行ノ促進ニ任ズルモノトス</p> <p>第七條 主任幹事ハ部長ノ命ヲ承ケ部ニ關スル庶務事項ヲ掌理ス</p>
---	--	---	--	--	---

内 令

九四一

0772

ス  
第八條 幹事輔佐ハ幹事ヲ輔佐ス

(別表)

ス

第八條 幹事輔佐ハ幹事ヲ輔佐ス

(別表)

部 長	副 部 長	部 員	幹 事
海軍省軍務局長	海軍省兵備局長	海軍省人事局長 海軍省教育局長 海軍省軍需局長 海軍艦政本部總務部長 海軍航空本部總務部長 海軍電波本部總務部長 海軍施設本部總務部長 海軍運輸本部長 海軍潜水艦部長 軍令部第二部長	(主任)海軍省軍務局第一課長 海軍省軍務局第二、第三課長 海軍省兵備局第一、第二、第四課長 海軍省人事局第一、第三課長 海軍省教育局第一課長 海軍省軍需局第一、第二、第三課長 海軍艦政本部總務部第一課長 海軍航空本部總務部第一課長 海軍電波本部總務部第一課長

海軍施設本部總務部第一課長 海軍運輸本部總務課長 海軍潜水艦部首席部員 軍令部第三、第四課長	幹事輔佐 關係部員中ヨリ必要ニ應ジ之ヲ命ズ	備考 本表ノ外必要ニ應ジ部員及幹事ヲ命ズルコトアル
---	--------------------------	------------------------------

0773



内令第七九七號（後送分）

大正九年内令第八號艦船彈火藥庫鎖鑰並取締規程中左ノ通改正

昭和十九年六月三十日

海軍大臣

第六條表ヲ左ノ如ク改ム

種別ノ 類別	裝備艦船別	主トシテ使用スベキ彈火藥庫種類
第一種	軍艦及給兵船 （但シ淺吃水砲 艦及公試排水艦 三〇〇〇噸未満 ニシテ最大備砲 口徑十二吋以下 ノ軍艦ヲ除ク）	砲火藥庫、黑色火藥庫 禮砲火藥庫、水雷火藥庫 機銃彈火藥庫（口徑三〇粒以上ノモノ） 機銃彈火藥庫、爆雷庫 射雷裝藥庫、發射裝藥庫 投射裝藥庫
第二種	機銃彈藥庫（口徑二〇粒未満ノモノ） 爆雷庫 火工兵器庫（航海科、飛行科、砲術科、 水雷科等） 火管庫（獨立セル一庫ヲ成セルモノ） 信管庫（同 右） 煙彈庫（同 右）	機銃彈藥庫（口徑二〇粒未満ノモノ） 爆雷庫 火工兵器庫（航海科、飛行科、砲術科、 水雷科等） 火管庫（獨立セル一庫ヲ成セルモノ） 信管庫（同 右） 煙彈庫（同 右）
第三種	右以外ノ艦船	彈火藥庫一般
第四種	艦船一般	木造彈火藥庫 應急彈藥庫 彈火藥庫内ニアル信管格納所

内令第七九七號

種別	四種
艦船一般	火管格納所及煙彈格納所 彈火藥庫通風弁用把手 彈火藥庫注水裝置及撒水裝置 弁開閉用把手 火藥罐同螺絲格納筐 檢漏器出入口 彈火藥庫周圍ノ空所ニ入ルベキ（廊室又ハ 「トランク」ヲ含ム） 人孔蓋 彈火藥庫用鐵箱
艦船一般	第三種及第四種錠前ハ豫備トシテ名艦船裝 備全數ノ二十分メ一ヲ供給ス（但シ其ノ最 小限ヲ一個トス）

第七條 一ノ「トランク」内ヲ昇降シ一ノ彈火藥庫ニ通ズルモ  
ノニ在リテハ中間ニ防水蓋ノ有無ニ拘ラズ該「トランク」最  
上位ノ艙口ニ鎖鑰ヲ施スモノトス  
第七條ノ二ノ「トランク」又ハ廊室ヨリ二以上ノ彈火藥庫  
ニ出入スル場合ハ各庫ノ出入口ニ所定ノ鎖鑰ヲ該「トランク」  
又ハ廊室ノ出入口ニハ第四種錠前ヲ施スモノトス  
第八條中「外扉」ヲ「外側扉」ニ改ム  
第九條 普通ノ出入口以外ニ於テ彈火藥庫ニ出入シ得ル交通口  
アル場合ハ該交通口ニモ夫々所定ノ鎖鑰ヲ施スモノトス  
但シ砲塔砲ニ於ケル給藥室火藥庫間出入口ノモノニ在リテハ  
火藥庫側ニ鎖鑰ヲ設ケ該鎖鑰ハ扉ヲ閉鎖スレバ自動的ニ鎖錠  
シ得ル特種ノモノヲ裝備スルヲ要ス  
尙扉鑰番ニ「スプリング」ヲ裝備シ施錠シ非ザル場合扉ハ半

内令

九四三

0774

トス

ヲ施スモノトス

所定ノ鎮鑄ヲ施スモノトス

ヲ施スモノト

第十一條 強盗ニリ被テ重ニ被テ強盗ニ入引匿スル被テ重ニ被テ強盗ニ入引匿スル

ノミミリ開陽シ得カ素ヲ記ス別ニ銚金ヲカニシ要ナク

張少參曰三以音自檢一病同書二括入括引

上音耶。山口二ノ宮。謂引之義。同月外。鉤鉤。三ノ

一、易令、省三、貴論、日一、發、

（原任）

「施スモノ、トスニ故ム

第十四條 各重要命令ニ對スル建ノ形式及定數左ノ如シ

Downloaded from www.worldscientific.com by UNIVERSITY OF NEWCASTLE on 09/06/15. For personal use only.

第一種	型式	定数
一 異種庫ニ對シテハ相異リタル銼型ヲ使用ス ニ 同種庫ニ對シテハ一銼ニ同一銼型ヲ使用ス	常用…庫數ト同數 豫備…銼型一種類ニ對シ二個	

	ルモ藥囊ヲ格納スル砲火藥庫ニ對シテハ相異リタル鍵型ヲ使用スルモノトス	異種庫ニ對シテハ相異リタル型式ノ「ユニオンキール」トス	第二種
	常用ニ庫數ト同數 豫備ニ鍵型一種類ニ對シ一個	庫數ト同數	第三種
	通風管兼用 弁總數ノ六分ノ一 但シ其ノ最小限ヲ二個トス 注水諸兼用 弁總數ノ二分ノ一 但シ其ノ最小限ヲ二個トス 火藥罐同類器格納燈用 一庫ニ付二個 彈火藥庫空所入孔用 一燈ニ付二個 檢濕器插入管用 插入管總數ノ四分ノ一 但シ其ノ最小限ヲ二個トス 彈火藥庫鍵箱用 一般ニ付二個	第四種	第四種
第十五條	銃前及鍵ハ其ノ用途ニ從ヒ砲術長、機雷長、水雷長、	備考 第二種銃前裝備ノ揚彈藥筒ハ同一鍵型銃前二個ニ對シ鍵一個トス 但シ其ノ最小限ヲ二個トス 第三種銃前裝備ノ揚彈藥筒ノ銃前鍵ハ當該庫ノモノヲ兼用トシ銃ハ設ケズ	第十五條

航海長又ハ飛行長主管トス  
 第十六條 彈火藥庫ニ關スル一切ノ鍵ハ之ヲ常用鍵及豫備鍵ニ  
 分チ各同種ノ鎖鑰ヲ有スル同型ノ常用及豫備鎖箱内ニ格納ス  
 ルモノトス  
 第十七條中「當直將校」ノ下ニ「又ハ副直將校」ヲ加フ  
 第十七條第一號中「後甲板若ハ後繼橋」ヲ「當直將校勤務位置  
 附近」ニ改ム  
 第二十條ニ左ノ但書ヲ加フ  
 但シ狀況ニ依リ副直將校ヲシテ之ヲ實施セシムルコトヲ得  
 第二十一條ニ左ノ但書ヲ加フ  
 但シ狀況ニ依リ副直將校ヲシテ立會セシムルコトヲ得  
 第二十二條中「及航海長」ヲ「機雷長、航海長及飛行長」ニ  
 改ム  
 第二十八條第一號(イ)中「當直將校」ヲ「當直將校狀況ニ依  
 リ副直將校」ニ改ム  
 第二十八條第二號(ロ)中「航海士」ノ下ニ「機雷士、飛行  
 士」ヲ、「掌信號長」ノ下ニ「掌機雷長、掌飛行長」ヲ加フ  
 第二十八條第二號(ロ)中「非常用鍵箱ノ場合ニ同ジ」ヲ「第  
 一號「常用鍵箱(ロ)非常及特別ノ場合ニ同ジ」ニ改ム  
 第二十九條第一號中「各其ノ科ニ屬スルモノニ限ル」ヲ削ル  
 第二十九條第一號中「及水雷砲臺長」ヲ「潛雷砲臺長、機雷部  
 指揮官、飛行隊長、整備部指揮官及兵器部指揮官」ニ改メ「掌  
 信號長」ノ下ニ「掌機雷長、掌飛行長」ヲ加ヘ「航海科ニ

内 令

九四五

屬スル」ヲ「航海科、機雷科、飛行科ニ屬スル將校」ニ改ム  
 第三十一條 彈火藥庫ヲ閉鎖スル際ニハ教練ノ場合ニハ砲臺  
 長、水雷砲臺長、機雷部指揮官、整備部指揮官、兵器部指揮  
 官狀況ニ依リ砲臺部附其ノ他ノ場合ニハ直接責任者ニ於テ廣  
 内異狀ノ有無ヲ檢シ閉鎖後之ヲ主管者ニ報告スベシ  
 第三十二條第三項ヲ左ノ如ク改ム  
 機雷艦長ノ特令アル場合ノ外閉鎖後直ニ之ヲ當直將校ニ還付  
 スベシ  
 狀況ニ依リ副直將校ヲシテ之ヲ實施セシムルコトヲ得  
 第三十四條中「職工」ヲ「工員」ニ改ム  
 第四十條中「及水雷砲臺長」ヲ「水雷砲臺長、機雷部指揮官  
 及兵器部指揮官」ニ、「及航海長」ヲ「機雷長、航海長及飛  
 行長」ニ改ム  
 第四十九條第三號ニ左ノ但書ヲ加フ  
 但シ鎖鑰ヲ彈火藥庫又ハ砲臺内ニ於テ實施スルモノニ在リテ  
 ハ第二十九條ニ規定スル鍵使用有資格者ノ告知ニ依リ記入ス  
 ルモノトス  
 (内令提要卷三、一三七頁參照)

0776

内令第七九九號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

第三十二號海防艦

佐世保鎮守府在籍

右警備海防艦ト定メラル

第三十二號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

第六十三號驅潛艇

右警備驅潛艇ト定メラル

昭和十九年六月三十日

海軍大臣

内令提  
要登載

内令第八〇〇號

右本籍ヲ大湊警備府ト定ム

昭和十九年六月三十日

海軍大臣

内令提  
要登載

内令第八〇一號

昭和十八年内令第八百三十三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年六月三十日

海軍大臣

内令提  
要登載

大湊警備府ノ項驅潛特務艇ノ欄「第八十一號(大)」ノ次ニ「第九十二號(大)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二頁参照)

内令第八〇二號

特設艦船部隊令中左ノ通改正セラル

昭和十九年七月一日

海軍大臣

内令提  
要登載

第二條第二號中「特設潛水艦基地隊」ノ次ニ「特設特別基地隊」ヲ加フ

第十四章ノ三ヲ第十四章ノ四トシ第十四章ノ四ヲ第十四章ノ五トス

第六十一條ノ四ヲ第六十一條ノ十七トシ以下第六十一條ノ六迄順次繰下シ

第十四章ノ三トシテ左ノ一章ヲ加フ

第十四章ノ三 特設特別基地隊

第六十二條ノ四 特設特別基地隊ハ所要ノ地ニ之ヲ置キ第一特別基地隊、第二特別基地隊等ト呼稱ス

第六十一條ノ五 特設特別基地隊ハ特種兵器ノ使用及其ノ教育訓練ニ關スルコトヲ掌ル

前項ノ外必要ニ應ジ特種兵器ノ實驗研究及調査ヲ行フコトヲ得

第六十一條ノ六 特設特別基地隊ニ必要ニ應ジ艦船部隊又ハ特